

月刊  
JMITU

# アキツカ



1月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部  
セガ グループ分会 2026年発行

No.493

# 2026年春闘大幅賃上げが必要

物価上昇が続いています。実際に買い物に行くと物価が高騰していることを多くの労働者が実感しています。

「戸建てが欲しいが、今の状況ではとても払えない。」「何をすることもお金がかかるただ生活するだけになっている。」

「子供が大学生で自宅ローンも残っている。今のままじゃ生活できなくなる。」「老後の事や親の介護の事を考えると年金も当てにならないので貯金を増やしたい。」「コンビニ弁当やおむすびが高すぎる。」

労働者の賃金が上がらない国になっています。

## 中高年の頭打ち賃金

多くの企業で、40〜50歳代になると賃上げが全くなく

なる賃金頭打ちが大問題となっています。その結果、50代になると20年前の同一年齢賃金より手取り額は減っています。その原因の一つは、社会保険、税金での引かれる金額の増加、もう一つは、成果主義賃金が導入され、今の等級の上限に達すると、次の等級に昇格しない限り、賃上げがゼロとなってしまう。また、評価が低い場合賃上げ額が低くなり、場合によっては下げられてしまいます。

若者が本当に働きたいと思える職場にする為には、中高年を含めたすべての労働者の大幅賃上げが必要です。

## 財界の方針

大企業を中心に人材獲得合

戦が繰り広げられ初任給が大幅に上がっています。どの企業も人材確保が重要な経営課題になっています。「賞与の一部」または「全部」を給料に組み替えることは、高水準の給料や初任給を引き上げる背景があります。賞与が高くても月給が低ければ人材獲得の競争力を失うという考えですが、導入された企業では、収入の予測が立てやすく家計管理が安定する。というメリットもあるが、まとまった金額にならず、ご褒美感がなくなり、成果報酬感が薄れやる気がなくなる。

## セガ早々発表

セガでは早々と昨年末に発表しましたが、2026年4月から国内の正社員を対象に、基本給を平均約10%引き上げると発表、基本給を底上げするベースアップや、賞与の一部を

基本給へ組み入れなどを実施し、年収ベースでは平均約4%の賃上げとなる。大卒の初任給は、3万円引き上げて33万円とする。

組合へも昨年末、概要の説明がありました。

SFVでは、AMとTOYSの給料体系を一緒にするという話も出ています。セガ同様にベースアップ等全社員が上がるのであれば問題ないですが、現状より制度が悪くなるようでは問題です。

SLSでは、新人事制度のおかげでここ数年、制度での賃上げ額はかなり低くなっています。従業員の平均年齢も高く、資格の上限にきてしまい、給料が上がらなくなっています。このところ一律ベースアップを行っていますが、物価上昇には追い付いていません。

仙洞田一彦

半年ほど前から、部分入れ歯を支えている歯がグラグラし始めた。下の歯は前歯七本と、右側奥一本だけ残して、他は部分入れ歯になっていた。上の歯も大分手が加わってはいるが、入れ歯はない。

グラグラしているのは、下右奥に一本だけ残っていた歯だ。かつて、その奥歯は歯科医が「一人頑張っています」と頑張りを評価していた。それには部分入れ歯を支えるための、丸くした針金がひっかけられていた。

先々月の十一月、私にとっては大仕事、一泊で出掛ける用事があった。その出掛けている最中に、何かの拍子にその歯が抜けたら大変だという恐れがあつ

た。その前に抜いて置くべきか。仕事が終わって落ち着いてから抜く方が良いか。どちらにしようか。

すでにそこまで歯が減っているのだから、歯が抜けることは初体験ではない。逆に体験していなければ、迷わずに出掛けてしまいかもしれない。知っているゆえに悩むのだ。

「あれっ」と思つて口を開けたら、抜けた歯がポロリなどということもあつた。それだったらいい。痛みも何にもない。血も出ない。そうなるってくれるならいい。しかし、私の人生は期待外れ、悪いほうへ転ぶことの方が多い。「俺は運のいい男」などと思つている人はいいけど、私の場合は逆だ。とはいえ、冷静に見ると全く逆でもないが、悪い方は予想しておいた方がいい。

一泊、寝ているときに歯ざしりかなんかして抜けたら、口中血だらけ。枕に血がついていたことがあつた。もしそうなたらどうしようという思いがある。目が覚めたら布団も枕も血だらけ。歯科医も初めてのところに行かなければならない。そうならたら出先の肝心な仕事は何もできない。何のために一泊、往復旅費かけて出掛けたのか分からなくなる。費用も無駄になる。参加者の一人には違いないが、私が話をする中心であり、そのために数十人が集まってくるのだ。だから、具合が悪くなつたので、欠席しますというわけには行かないのだ。

抜歯したら、後の治療が必要だ。その時間的余裕はない。抜かずに出掛けることにした。用を無事に済ませて、帰って来たら歯科医に行つて抜いてもらお

うと思つた。

無事帰つて来た。けど、帰つてきたらそんな気もなくなつた。自分で言うのもなんだが、のど元過ぎれば熱さ忘れるという如く、忘れるのが早い。それがあ

るから、この歳まで生き残つたのだともいえる。それから二カ月、グラグラして過ごした。ついに夜中に目が覚めた。グラグラがひどくなつて目が覚めた。意識しなくとも舌が、自分の舌が、グラグラの歯を触る。痛い。触つてはいけないと頭が思つても、自分の舌が言う事を聞かない。舌を歯から遠ざけても、すぐそちらに舌が動いて行く。痛い。

自分でもよくひらめいたなど思つたくらい、自分で感心した。このままでは眠れない。時計を見ると午前一時前。ひらめいたのは、部分入れ歯を嵌めること

だった。寝る前にはいつも外す。それを嵌めるのだ。

「一人で頑張っている」

と、褒められたが、実際には前の方に残っている歯、そして左側奥の歯肉によっても部分入れ歯は支えられている。だから、部分入れ歯を嵌めこむと、グラグラの歯も支えられることになる。一本立ちではグラグラ揺れるが、前に残っている歯。そして左奥の歯はないが、入れ歯を載せる歯肉がある。

部分入れ歯を嵌めると、支えていたものが、支えられる側になるのだ。教訓的に言うと、お互い支え合って生きて来たのだ。これからも支え合おう。

今だからこんな暢気な言い方をできるが、あの晩は舌で口の中の感触を確かめながら絶望的にもなっていた。一泊で出かける前に考えた枕も布団も血だら

け状態。まさか真夜中に歯科医に駆け込むわけにもいかない。

しかしひらめいたのだ。

布団から出て、流し台のところにいった。いつも水を入れたコップの中に入れてある部分入れ歯を取り出し、口に嵌めた。二、三度口をすすいで、寢床に戻った。舌でまさぐったが動かない。血まみれは避けられた。「明日こそ歯科医に抜いてもらおう」

決意を固めて寝た。

朝食をすまずと歯科に行った。徒歩で三十分かかる。寝ている間も部分入れ歯を嵌めておいたせいか、首を反らせたりすると、どこか違和感がある。思い出した。二カ月前一泊で出かけた時は、睡眠中も部分入れ歯を入れたままだった。意識しなかったが、その経験が生きたのだからかとも思った。その経験があつ

たからひらめいたのか。自己肯定感が湧き上がった。

予約でなく飛び込みで行った

ので、いつもより待つ時間が長かった。名前を呼ばれて椅子に腰かけた。麻酔を打たれた。

「抜きますよ」

「ハイ」と言えないから、肯くように首を動かした。一瞬だった。痛みも、衝撃もない。麻酔なんか必要なかったんじゃないかと思っただけだった。

「お持ちになりますか」

私は目の前にある歯科の小さな道具、名前は知らないが、それらが載っている小さな移動テーブルの上を見た。歯科医は抜いた歯を、持ち帰るかどうか聞いたのだ。私は持ち帰らないという意味で、首を横に振った。振り返ることができないので、歯科医が何をするためにそこを離れたのか知らないが、後から

考えると部分入れ歯の支える針金の形を変える作業をするために離れたようだ。

その間に考えた。長い間世話になった歯に對して、首を横に振るのは冷たすぎやしないか。歯に失礼じゃないか。うちにいたときにポロツと抜けた歯は、取っておいてある。歯科医で抜いた歯は、持ち帰ったことがない。今回はなぜか知らないが、おそらく歳のせいだと思いが、持つて帰るべきだと考えが変わった。歯科医が戻ってきたので、言った。

「持つて帰ります」

「はい」

女性の若い歯科医は、ニコツと笑みを浮かべて答えた。

以前ポロツと落ちた方の歯は、大根のようで角がない。今度のは般若の面を逆にしたような、二本の角が下向きにある。